

# VII 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2016

## ■ 開催概要

- ◆ 日 時：2016年2月7日(日) 10:00～16:30
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA・B
- ◆ 参加者数：一般参加者 128名、受講者 39名、JICA11名、NIED 7名、合計 185名  
(一般参加者内訳：教員 80名、学生 17名、JICA・NPO 関係者 15名、その他 16名)
- ◆ ファシリテーター：(特活) N I E D ・国際理解教育センター 伊沢令子氏、研修受講者

## ■ 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2016 のねらい

- ①【受講者】 実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
- ②【参加者】 実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
- ③【主催者】 開発教育・国際理解教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

## ■ プログラムの内容

### ● セッション1 「導入と実践報告ポスターセッション」 10:00-12:30

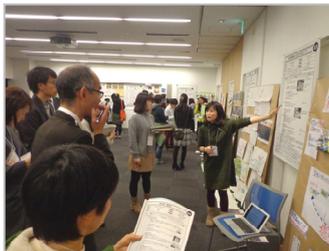
#### 1. あいさつ・概要説明など 10:00-[25]

- ◇ 主催者 (JICA 中部 熊谷所長) が主催者あいさつを行った。
- ◇ 開発教育指導者研修 (実践編) および教師海外研修プログラムの概要をパワーポイントで JICA 中部 古藪調整員が説明した。
- ◇ 実践報告フォーラム 2016 のねらいとプログラムについてファシリテーターが説明した。
- ◇ 挙手アンケートで、どんな人が参加しているか確認した。



#### 2. 41人ポスターセッション (実践報告) 10:25-[120]

- ◇ ポスターセッション (実践報告) を行うにあたり、参加者は配付資料「実践報告シート集」リストも参考に会場内のポスターを見て歩き、どのセッションに参加するかを絞る時間を 10 分間設けた。その間、受講生は配置に着き、報告の準備を行った。
- ◇ 前半 50 分の 20 人、後半 50 分の 19 人に分け、拡大した実践報告シートや参考教材等を使いポスターセッションを行った。10 分間を一つの区切りとし、1人5セッションの報告と質疑応答を行った。なお、当日欠席となった2人の受講生分は、掲示のみとした。



- ◇ ポスターセッション終了後、午後のプログラム、4つのワークショップのテーマと会場、昼食について説明した。

- 休憩 - 12:30-[60]

● セッション2 「実践教材体験ワークショップ」 13:30-15:05

1. 実践教材体験ワークショップ 13:30-[90]

◇ 4つの会場に分かれて、以下の4チームがワークショップを実演した。詳細は次ページ以降参照。

- 分科会1 (開発支援・国際協力) … 「おどろき! はっけん! やってみよう! (ガーナ編)」
- 分科会2 (環境) … 「ポテチの向こうに」
- 分科会3 (貧困と豊かさ) … 「Ho! a! エルサルバドルを知ろう!」
- 分科会4 (多文化共生) … 「もう一つの五輪~参加型多文化共生オリンピック~」



◇ 移動10分

● セッション3 「海外研修報告」 15:15-16:05

1. 教師海外研修報告 (エルサルバドル) 15:15-[25]

◇ 同行ファシリテーターによるチーム紹介後、次の流れで海外研修報告を行った。

- ① エルサルバドルの場所等、基本情報を紹介
- ② 各訪問先で聞いたエルサルバドルの人の「夢」を、写真を見せながら紹介
- ③ 現地研修で得た受講生各自の一番の気づきを、キーワードを書き出した用紙にて1人ずつ発表



2. 教師海外研修報告 (ガーナ) 15:40-[25]

◇ 同行ファシリテーターによるチーム紹介後、次の流れで海外研修報告を行った。

- ① ガーナの生活や現地での体験を学校の授業形式の寸劇にて写真とともに紹介
- ② ガーナと日本の国の特徴と、現地研修を通して気づいた二国間の協力のあり方を紹介
- ③ 全員が前に立ち、総括のあいさつ



● セッション4 「ふりかえり・閉会」 16:05-16:30

1. ふりかえり・閉会 16:05-[25]

- ◇ 実践報告フォーラム 2016 のふりかえりを各自シートに記入した。
- ◇ 受講者を代表して河村有紀さんが、閉会のあいさつを行った。

※ 閉会后 30 分間、参加者と受講者が自由に歓談、交流を行った。

## ■ 実践教材体験ワークショップの内容

### ●分科会 1 の記録 (A1会場)

テーマ	開発支援・国際協力 (ガーナ研修メンバー)	タイトル	おどろき！はっけん！やってみよう！（ガーナ編）
ねらい	シンクグローバリ、アクトローカリー（地球的な視野で考え、地域で（身近な）行動せよ！！）		
参加者	42 人（内訳：参加者 31 人、提供者 9 人、スタッフ 2 人）		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:30	1 アイスブレイキング ◇バースデラインナップ…黙って誕生日順に並ぶ。(a) ◇グループ作り…1～7の番号をつけてグループになる。	(a)黙っての確認に手間取り、笑いがおきた。答え合わせで間違いが少々判明。そのたびにざわめき。全て終わって拍手。	
13:42	2 グループ内自己紹介 ◇参加者同士、「～が好きな or～が得意な○○です。」で自己紹介。	笑顔で自己紹介。指示はなかったがあちこちから拍手が起こり、スムーズに進む。	
13:47	3 チョコッとかるたでガーナを知ろう ◇受講者作成「ガーナ情報カルタ」をグループに 1 セット配付。ファシリテーターが文章を読み上げ、該当するカードをグループ内で参加者がとる。(a) ◇カードの裏に書いてある情報を読み上げる。(b) →受講生が現地研修で驚いたこと、ガーナの課題だと思ふことを中心に情報提供。	(a)カードをとる場面では歓声があがり盛り上がった。優勝者に大きな拍手。 (b)カードの情報に加えて、ガーナ研修メンバーが会話の中で現地での研修から得た情報を付け加えて紹介し、参加者から感心した声が聞こえてきた。	
14:09	4 開発協力気付き会議をしよう ◇青年海外協力隊 農村コミュニティ開発の若田さんのガーナでの活動紹介。(a) →好きなジャム作りを活かして、大量廃棄されるパイナップルを収入に結びつけていることを抑える。 ◇カルタに書かれたガーナの課題について、自分の好きなことで課題解決に役立ちそうなことを、付箋 1 枚につき 1 項目、できるだけたくさん書き出す。(b) ◇書き出した付箋を番号別に模造紙に貼り、自分たちが共感でき、取り組みそうな開発協力を見つける。 ◇開発協力気付き会議を行う…プロジェクト名とアイデアを模造紙に記入する。(c) ◇全体発表(d)	(a)熱心にパワーポイントを見ている。 (b)黙々と付箋を書く。 (c)付箋が貼られた模造紙をのぞき込みながら熱心に協議。 (d)拍手。熱心に見ている様子。時折感嘆の声。	
14:52	5 資料「ガーナで行われている支援」提供 ◇配付された資料をグループの中で一人読み上げる。		
14:55	6 振り返り・感想共有	お互いの感想に拍手、肯き、笑顔。	
15:00	7 メッセージ ◇ファシリテーターからメッセージを伝える。…自分の身の回りのこと、好きなこと、すぐ側にあることが協力を結びつく。		

## ●分科会 2 の記録 (A2 会場)

テーマ	環境 (実践編メンバー)	タイトル	ポテチの向こうに
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポテトチップスを初めとする植物性油脂を使った製品にパーム油が使われていることを知る。</li> <li>・パーム油生産や環境保全にかかわる人々の立場を理解する活動を通して、持続可能な開発について考えることができる。</li> </ul>		
参加者	27人(内訳:参加者21人、提供者4人、スタッフ2人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:32	1 あいさつ(提供者自己紹介) 2 参加者に数字を振ってグループ分け、参加者同士「好きなお菓子」で自己紹介。	初体面ということもあり、最初は緊張している様子だったが、自己紹介をするうちに打ち解けてきた。	
13:45	3 ポテトチップスの原材料 ◇ポテトチップスの袋をグループに配付、原材料を見て全てに共通するものを探す。→食塩、植物油 ◇個人でパーム油クイズに回答する。(a)	(a)正解し「ヘー」という声があがったり、答えを知って「そうなんだ」という言葉が出たりし、関心が高まった。	
13:52	4 パーム油の生産過程を考える ◇8枚の写真をパーム油製造の過程順に並べ替える。(a) ◇「パーム油製造過程でどんな問題」があるかをブレンストーミングと派生図で考え、全体共有。印象的な意見に☆印をつける。(b)	(a)自己紹介をした後ということもあり、盛り上がった。 (b)「単一生産」「低賃金」などに多く☆印がついた。	
14:05	5 問題が解決しないとならぬか ◇もし、問題が解決されなかったらどうなるかを箇条書きでまとめ、全体発表。(a)	(a)箇条書きは、戸惑いつつ、悩みながらやっている。発表では「生態系の破壊」「水質汚染」「国家報告愛」「温暖化」「QOLの低下」「貧困」などが挙がった。	
14:20	6 農園開発会議 ◇マレーシアでのパーム油プランテーション開発会議ロールプレイングを行う。(a) ◇会議をして気づいたことを30秒シェアする。(b)	会議参加者…マレーシア政府役人／農園開発企業幹部／洗剤メーカー／計画地にある村の村長、開発賛成派・反対派の2人)／環境保護NGOスタッフ (a)各自が役になりきり、会議が白熱している。 (b)気づいたことを熱心に共有している。	
14:35	7 私たちにできること ◇WWF ジャパンの資料を配付、ファシリテーターから解説。 ◇11個の選択肢が書かれた資料を配付、内3つを選ぶ。自分で書き足してもOK。 ◇選んだ選択肢をグループ内で発表し、どんな話があったかを全体で共有する。(a)	(a)参加者からは次のような意見が出た。「たまたま先週マレーシアに行き、プランテーションを見てきた。その後オーガニックスーパーで外国産のパーム油を使っていないと書いてある商品が売っていた。そこでマレーシアのプランテーションの問題点に気づいた。」	
14:45	◇市販の商品について、原材料に「植物性油」ではなく「パーム油」と書いてあるものを探す。 ◇参加者が取り組んでいる活動を紹介。 ◇参加者から感想を聞く。(a)	(a)参加者からは次のような意見が出た。「環境にやさしいと書いてある商品を見ることがあるが、それは間違いだということに驚いた。企業の宣伝とかに惑わされることなく判断していきたい」「世界に目を向けて、人権や環境のことを考えている政党に投票したいと思う」「今後周りに伝えるなど取り組んでいきたいと思う」	

## ●分科会 3 の記録 (B1 会場)

テーマ	貧困と豊かさ (エルサルバドル研修メンバー)	タイトル	Hola! エルサルバドルを知ろう!
ねらい	エルサルバドルの現状と日本とのつながりを知り、課題を共有し、できることを考える。		
参加者	37人(内訳:参加者25人、提供者9人、スタッフ2人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:30	1 アイスブレイキング ◇グループを作り、参加者同士「行ったことのある国・行ってみたい国」で自己紹介。	一人終わるごとに拍手をしている。	
13:40	2 エルサルバドルのウソホントクイズ ◇エルサルバドルにまつわる情報(国基本情報、歴史、生活など)と、日本とのつながりをクイズ形式で提供。答えをグループで相談し、「ウソ」「ホント」カードを上げる。	答えを知って「おう〜」「あ〜」などと声を上げ、想像と違って驚いたり、正解して喜んだりしながら楽しんでいる。	
13:50	3 実はつながっている私たち〜コーヒー編〜 ◇エルサルバドルのコーヒー産業の実態(貿易の様子、ロヤ病の実態、異常気象など)を紹介し、ロヤ病が流行るとどんなことが起こるかを生徒図で考える。 ◇全体共有。自分のグループにはない意見や良いと思う意見に☆印を付ける。(a) ◇ロヤ病を止めるにはどうしたらよいか? 解決策は?(b) →現在のエルサルバドルではなかなか解決できないという現状を伝える。	(a)グループからの発表 太る人が増える/カフェで勉強できなくなる→日本の学力が下がる/品種改良し豆が高くなる/地球温暖化→紛争が起こる  (b)参加者からの意見 品種改良する/環境を変える	
14:08	4 なぜエルサルバドルは経済発展ができないの? ◇情報シートを配付、ファシリテーターから簡単に説明。 ◇その後の過程をカードを並べて考える。 ◇エルサルバドル版「負の連鎖カード」を、「経済成長ができない」を始点にして並べ、気付いたことを発表する。(a) ◇資料「出稼ぎに関する海外送金」を参考に配布する。	情報シート…出稼ぎ・不法入国・教育・海外送金 エルサルバドル版「負の連鎖カード」…治安が悪い・国内の仕事が無い・子どもが国に残される・経済成長できない・海外企業が来ない・就学率が下がる・子どもが家事をする・出稼ぎに行く  カードを前に意見を交換している。 (a)悪循環が起きている。	
14:19	5 エルサルバドルを良くするリーダーになったら… ◇自分がエルサルバドル人だとして、グループごとに自国を良くするための政策提言を考える。 ◇全体発表し、自分のグループ以外の企画に持ち点1人2点を入れ、企画書の一つ選ぶ。	「こんなことはあったらいい」など意見を出し合っている。 多様な視点で考えている。 完成したグループから拍手が起こる。	
14:52	6 ふりかえり ◇各グループで感想を出し合い、全体共有	参加者からは次のような意見が出た。「エルサルバドルについて知らないことをたくさん知った。重い問題だったが楽しく学べた。」「途上国という暗いイメージばかりだが、一つのことを解決することをいろいろな考えることで、少しでも良い方向に向かうことができた。」「たくさんの人々と学び合うことで多くの視点から学ぶことができた。」	

## ●分科会 4 の記録 (B2会場)

テーマ	多文化共生 (実践編メンバー)	タイトル	もう一つの五輪～参加型多文化共生オリンピック～
ねらい	多文化共生を実現するために大切なことに気づき、自分たちにもできることを考える。		
参加者	42人(内訳:参加者35人、提供者5人、スタッフ2人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:30	<p>1 アイスブレイキング</p> <p>◇グローバルビンゴ・イエスだったらサインをもらう。それに関するエピソードを話す。1列そろったらビンゴ(a)</p> <p>ビンゴになった人に、印象に残った人を紹介してもらおう。</p> <p>◇仲間探し 仲間壊し</p> <p>血液型、中学校時代の部活動、住んでいる県(b)</p> <p>◇住んでいる県、地域ごとにグループ分け</p> <p>◇グループで、参加した理由を添えて自己紹介。(c)</p>	<p>(a)ビンゴが始まったら、すぐに自分から相手を見つけて話しかける人が多く、会話が弾んでいる。ストップの合図がかかっても、話し続けるくらい盛り上がっている。ビンゴになった人に対して温かい拍手。</p> <p>(b)急にお題が振られたので、「えっ」と戸惑いがあったが、すぐに自分の血液型を口にし、集まっていた。仲間ごとに答えを口にする「おおー！」と盛り上がる。</p> <p>(c)共感しながら聞いている。和やかな雰囲気。</p>	
13:50	<p>2 参加型多文化共生オリンピックを考えよう</p> <p>◇「オリンピック」といえば…ブレンストーミング(a)</p> <p>◇オリンピックの理念(オリンピズム)と理念の確認</p> <p>→肌の色や言葉、国の違いに関係なく友好を深め、人と人とが繋がることで、平和な世界を築くことが目的。選手間の競争であって、国家間の競争ではない。(b)</p> <p>◇オリンピズムを達成することを目的とした「参加型多文化共生オリンピック」を、開催地域の一員として考え、提案する。グループ名、対象、場所、内容は自由。模造紙にまとめ、3分間のプレゼンテーションができるように準備する。(c)</p>	<p>(a)平和、経済効果、五輪、ドーピング、など、浮かんだことを口にしながらかいている。</p> <p>(b)最近、マイナスのイメージもあるが、本来の目的を改めて知って、納得できた様子。</p> <p>(c)どのグループもいろいろなアイデアが出て、話し合いが円滑に進んでいる様子。笑い声も聞こえる。</p>	
14:20	<p>3 プレゼンテーション</p> <p>◇1グループ3分で発表し、自分たちのプロジェクトをアピールする。(a)</p>	<p>自主的に発表するなど意欲的。どの発表に対しても、温かい拍手がある。(a)</p>	
14:37	<p>4 アイデアの共有</p> <p>◇他の班の模造紙を見て、「いいね！」と思うポイントに☆印をつける。(a)</p>	<p>(a)他のグループの模造紙を、興味をもって読んでいる。模造紙に☆印をたくさんつけている。自分たちの模造紙に☆印がついているのを見て、うれしそうである。</p>	
14:43	<p>5 振り返り・多文化共生で大切なこと</p> <p>◇どんなことに気をつけてプロジェクトを考えかをグループの中で共有。</p> <p>◇出された意見は、私たちが生活している社会、地域においても大切なことではないかと投げかけ。</p> <p>◇「多文化共生社会を実現するための私たちの1歩」と題し、心がけたいことや自分たちにできることを話し合い、模造紙に3つ書く。(a)</p> <p>◇グループごとに発表。(b)</p>	<p>(a)真剣に考え、意見を出し合っている。</p> <p>(b)参加者からは次のような意見が出た。「違いと共通点を知る」「お互いを思いやる」「共に体験する」「みんなが笑顔になれる仲間づくり」「行動する」</p> <p>全体として、次のような感想が出た。「楽しかった。」「グループの中でお互いの案が活かされていてよかった。」「時間が足りないと思うくらい、もっと考えたいと思った。」</p>	

## ●ふりかえりシートの回答

※「ふりかえりシート」を一部集約して掲載した。( )内は記入者の属性

### 「発見したこと、嬉しかったこと」初参加者

- 多くの方が“教育”について何か得たいと考えている。(教員)
- 国際理解、協力に関心を持っている仲間と出会い、つながることができた。(教員)
- たくさんの先生方が国際理解教育や開発教育について考え、子どもたちに授業等を通して伝えていた。(教員)
- 教育現場で伝えられた子どもの理解する力と、伝える先生方の伝える、感じさせる力がステキだった！！(学生)
- より良い社会を目指し行動(実践)している人がたくさんいると知った。(学生)
- 知り合いに会えた。自分と同じようにこれに興味を持ち、実践したいと思っている人が身近にいたと知れた。(NPO)
- 自分の学級で実践したいと思う授業のアイデアがたくさんあった。(教員)
- 早く教員になって実践したいという気持ちが強まった。(学生)
- どんなことでも教材になり、すてきな授業ができる。多様なテーマが国際理解教育の教材になるとわかった。(その他)
- 実践体験ワークショップがとても楽しかった。課題に対して人の思いがたくさん出されると、より良いものが生まれる。(教員)
- ワークショップで自分の考えたタイトルを認めてくれて嬉しかった！子どもって、こんな気持ちなのか！(教員)
- ガーナ、エルサルバドル研修のお裾分けをもらった！！(教員)
- 海外研修から帰ってきてからも、自分の学んだことを分かち合っていてすてきなと思った。(学生)
- 途上国が抱えている問題について考える機会を得られた。(教員)
- 自分から動き出すことを発見した。(学生)
- 各国の現状と先生方の実践から、今後の生活に生かす視点を見つめることができた。(教員)
- 「協力」できるプロジェクトは大きなことだけど、そのスタートは身近な小さなこと。(教員)
- 自分のできることから少しずつやっていけば、国際協力ができる。(教員)
- 高校生が参加していることに驚いた！(教員)
- 人がつながるには場と機会が必要不可欠。(その他)
- 国際理解教育を通じてクラスの課題(自分に自信ない、特定の友達としか話さないなど)も解決しようとしていた。こういう先生がたくさんいて頼もしかった。(NPO)
- フォーラム全体として何かを否定したり欠点を指摘したりしない。ベースには人間尊重、人権尊重の精神がある。(教員)
- アイスブレイキングの大切さを学べた。自由に話していいんだという雰囲気を作れると実感した。(その他)
- 国際理解教育には可能性がある。実践していきたい。(教員)
- 開発教育、国際理解教育には様々なアプローチがあり「正解のないもの」であると感じた。多くの先生方が問題意識を持ちながらも楽しそうに発表している様子に勇気づけられた。(教員)

### 「発見したこと、嬉しかったこと」2回以上参加者

- 新しい出会いと、昨年度の方々との再会。(教員)
- 学び続けている仲間がいる。(教員)
- 教え子に会い、驚くとともに嬉しかった。つながりを感じた。(教員)
- 高校の時の先生と再会し、つながることができた。(教員)
- 研修で学んだことが各現場で生かされている！(教員)
- なかなか理解を得るのが難しい現場で、めげずに開発教育を実践している人が大勢いた。(教員)
- 同じ気持ちを持った人の実践例を聞けるので、とても有意義だった。(教員)
- これから自分がどのように教育の現場に還元していけばいいか、実践を聞いたり報告を聞くことでヒントを得ることができた。(教員)
- 昨年と比べてより吸収でき、1日で実践に生かせそうなことをたくさん得た。(教員)
- 国際理解教育を受けた生徒たちへの影響。(学生)
- 教員の方がそれぞれの目的を持って生徒に伝えていた。(学生)
- 暗い現実も、明るい未来を考えると悪くないなと思えた。(NPO)
- 課題を「自分事」として振り返ると、もっと知りたいことがたくさん出てきた。(NPO)
- 若い参加者、新たな参加者が年々増えている。(NPO)
- ワークショップは楽しい！(その他)

### 「発見したこと、嬉しかったこと」研修受講者

- 仲間に出会えた。やっぱり仲間だと思えた。(教員)
- 仲間とワークショップを成功させることができた。(教員)
- みんなが集まるから新しいアイデア、発見がある。(教員)
- たくさんの人が実践報告に関心を持って聞いてくれた。(教員)
- 実践を見て、子ども達がとても楽しそうという感想をもらった。(教員)
- 私の実践も、誰かの実践につながる立派なヒントになったのだという発見。(NPO)
- 新しい出会いが自然に生まれた。どんどん伝えてつながっていくのを実感した。(教員)
- 自分の新たな一面を発見できた。(教員)
- 参加型の力を再確認できた。(教員)
- 開発教育、国際理解教育が多くの人に受け入れられていた。開発教育に興味を持つ人はたくさんいる！(教員)
- 様々な提供方法と工夫があり、引き出しが増えた。(教員)
- 他の先生の取り組みも、勉強になった。(教員)
- 新たなアクティビティを知り、やりたいことが見つかった。(教員)
- 自分の課題・反省点が見つかった。次の目標ができた！“エピソード”は“プロローグ”。(学生)
- 一昨年から連続して受講し、自分の成長を実感できた。(教員)
- 同じ学校の後輩、同僚が来てくれた。(教員)
- 同じ素材でも、切り口によって多様な開発教育のプログラムが生まれていた。(教員)
- 今日の日を充実した日と思えた。(教員)

### 「つなげていきたいと思ったこと」初参加者

- 開発教育・国際理解教育を自分の学校で実践しながら子どもたちにきっかけを与えていきたい。(教員)
- 小学生中学生対象の出前講座で国際理解教育を実践していきたい。(NPO)
- 自分の「好き」や「得意」を考える。それらが他人の困難の解決にどう生かされるか考える機会を生徒に与えたい。(教員)
- ワークショップを通して、一人ひとりの考えを引き出す学びにつなげ、実践していく。(教員)
- リソースを活用した汎用性のある開発教育・国際理解教育の授業整理→パッケージ化→カリキュラム化 (教員)
- 今日知ったアイデアや手法を、これからの授業案に取り入れていきたい。生徒と一緒にやりたいということもいくつかあった。(教員)
- 子どもたちが世界に目を向け、自分にできることを考えるようにしたい。(学生)
- 開発教育を十分理解し、自分のフィールドでアレンジし活用したい。(NPO)
- 青年海外協力隊などに参加し、自分にできることをどんどん必要とする人に広げていきたい。(教員)
- 国際理解教育とはどのようなものであるかを、自分の周りの人々に伝えていき、興味を持ってもらいたい。(学生)
- 将来教員になった時に開発・国際理解教育を実践したい。児童・生徒に伝えていきたい。(学生)
- 多くの人のつながりを保ってきたい。(NPO)
- 自分にできることを明日から始めたい。海外に行きたい。(教員)
- 自分も発展途上国に行って、現地で支援活動をし、また日本の教育に還元していきたい。(教員)
- 「知ることから始まる国際理解教育」。今後の教員人生で常に語り続けたい。(教員)
- 行動に起こすことが大切。色々な観点の「開かれた教育」の規模を大きくすることが必要。(教員)
- 今回プレゼンてくださった先生方の伝え方がすごく良かった！！伝えたいことを相手に分かりやすく伝えたい。自分の伝え方、見直したい。(学生)
- 世界について学ぶだけではなくて、実際に行って体験・体感したい。知ったことを広めて、つながってきたい。(学生)
- 今日学んだことを将来の夢につなげていきたい。(学生)
- 色々な手法を取り入れたワークショップを作りたい。(その他)
- 地域の人々をつなげる場と機会を提供したい。(その他)
- 自分の地域にいる熱い先生方の点をつなげて線にしていきたい。(その他)
- ファシリテーターとしてワークショップをしたい！(NPO)
- 3F (fashion, food, festival) を越えた、本当の意味での理解教育に発展させたい。(その他)
- 職場の若い先生方に、このような場に参加させたい。(教員)
- もっといろいろな人をこのフォーラムに誘いたい。(学生)
- 来年度、この研修に参加したい！(教員)

### 「つなげていきたいと思ったこと」2回以上参加者

- 今の活動に自信と希望を持ち、継続する。(教員)
- 自分が与えられた場と環境の中で、できる範囲であきらめないで開発教育を実践していきたい。それが私たちに与えられた“縁”だから。(教員)
- 高校の実践報告を聞いて、勤務校で取り組みたいことが得られた。その先生方とのつながりをもって挑戦してみたい。(教員)
- 国際理解教育の実践を、これからは自発的にできたらいいなというモチベーションを得た。(教員)
- 自分にできること、子どもたちに考えてほしいことを改めて見つめ直したい。今度の課題について、自分自身も学ばなければ。(教員)
- 参加型教育がずいぶん広がってきたように感じる。自分自身ももっと研鑽し、自分のワークショップに活かしていきたい。(NPO)
- 受講者が参加者になり、参加者が受講者になると、つながりを感じた。そんな場を作れるよういろいろ仕掛けていきたい。(その他)
- 一人の力では限られている。仲間を増やすことが大事。(教員)
- このようなセミナーを周りの先生たちに伝えていきたい。(教員)
- 大切な物＝お金と言う生徒を短絡的に「物質主義者！」と思わない。背景を考える。(教員)
- 世界のニュースに関心を持つ。アンテナを高くして、教育現場で伝えられることを収集していく。(教員)
- 大学での自分の研究につなげていく。(学生)

### 「つなげていきたいと思ったこと」研修受講者

- 今回の発表でいろんな実践や教育方法があることを知った。新学級でまた新たにやりたいことが見つかった。(教員)
- 現場での実戦を経験して自分に自信がついた。苦手なことも、苦手と思っただけで意外とやれるかも…と思えてきた！(教員)
- 今回限りにはしないように、継続して、開発教育を学校で行いたい。教育の力はこんなに大きいし、可能性大だから！(教員)
- 同僚と共に国際理解教育を実践したい。行動する力を身につける、行動につなげる学習を、子どもたちへ贈りたい。(教員)
- この学びを子ども達にも先生達にも伝えたい。活動する人を増やしたい。(教員)
- 一人でも多くの方に学んだことを還元していきたい。(学生)
- 開発教育は、まだまだ他の教育活動と関連させることができる。そのためのカリキュラム開発をしていきたい。(教員)
- 「自分を信じる、学生を信じる、参加型の持つ力を信じる」をしていきたい。意識して。(教員)
- 「継続は力」。学んだことを磨き、活用して、少しずつでも現状を変えたい。(NPO)
- 時間や対象者がなくても、参加型で学ぶことはできる。常にその工夫と努力をし続けていきたい。(NPO)
- ここで出会った人達とのつながりを大切に、活動とアイデアの幅を広げていきたい。どこかで授業に呼べたらなあ…。(教員)
- 授業をする以外にも、普段の生活を見直してみる。自分ができることから行動。(教員)